

平成19年度

決算

キーワードは「健全財政」。 市税増収の恵みを、 将来への備えに。



平成19年度における一般会計の歳入総額は375億4574万円で、前年度に比べ9.1%伸びています。その一方、歳出は慎重な財政運営で経費の節減に努め、予算執行率は92.3%と、前年度に比べ1.8%も低下しました。結果、実質収支額（繰越事業に充てる財源を除く）は23億9673万円となっています。

なお、一般会計と特別会計を合わせた歳入総額は564億6772万円（前年比105.7%）、歳出総額は530億964万円（同106.9%）でした。

過去最高の市税収入

臨海企業に支えられた法人市民税の伸びにより、市税収入は前年度に比べ約41億461万円、22.4%

アップし、過去最高額を記録しました。

しかし、景気の先行きが不透明な中、好調な税収を将来の歳入変動に活かすことが必要となります。そのため、基金の取り崩しをやめ、市債の借入れを縮小するとともに、財政調整基金を約17億円積み立てました。

平成19年度は、歳出の抑制と併せて、将来を見据えた健全な財政運営に取り組んだ1年といえます。

1【基金】特定の目的のために積み立てている資金

2【市債】市が施設や道路などを整備するために、国や金融機関から借り入れるお金。返済義務のある借金

3【財政調整基金】年度ごとの財源の不均衡を調整する基金。収入に余裕のある年に積み立て、不足する年に取り崩すもの

田原市役所南庁舎